

オプション取引の基礎知識

【オプション取引とは？】

オプション取引を一言でいいますと↓

日経平均株価を

「定められた期日に

定められた値段で

売買する権利」

を取引することです。

※注意※ オプション取引では実際に物の受け渡しはありません。

オプションとは“権利・選択”を意味し、
オプション取引とはその名の通り
「権利を取引(売買)する」という意味になります。

「権利の取引」と言うとなかなか理解しにくいという方も
いらっしゃると思いますので、詳しく説明していきましょう。

オプション取引をする際の“基本中の基本”で

「コールオプション」と「プットオプション」

というものがあります

それではまず、それを覚えることから始めてみましょう。

【コールオプション】

コールオプションとは

“**買いつける権利**”

のことを言います。

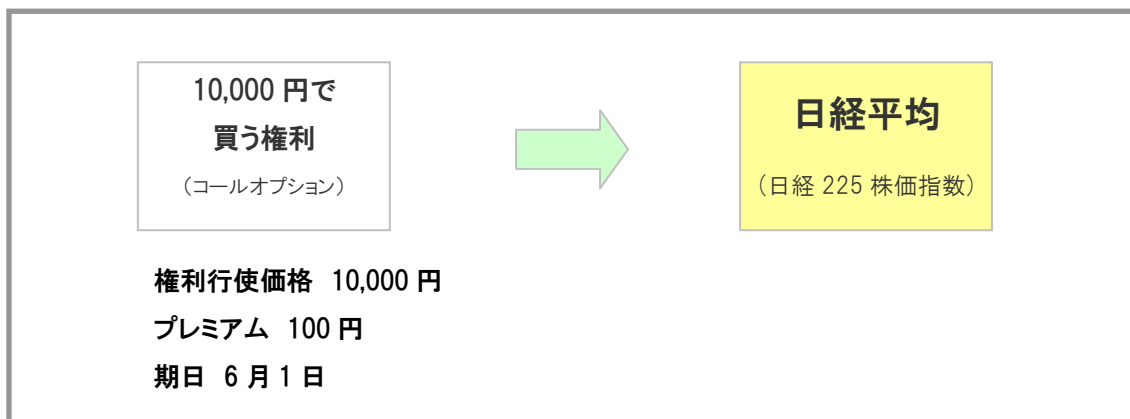
権利の売買なので

- ・「**買いつける権利**」を買う
- ・「**買いつける権利**」を売る

という取引ができます。

今回はさらにわかりやすくするために、
図を使ってコールオプションの例をご説明しましょう。

○コールオプションの例



※注意※

図右の日経平均とは、「日経 225 の株価指数」のことを指します。

上の例では、日経平均を 10,000 円で買うことができる
権利(コールオプション)を示していますが、
この価格(10,000 円)のことを**権利行使価格**と言います。

そして、オプション自体の値段のことを**プレミアム**と言います。

それともう一つ、オプション取引には必ず
期日(満期日)があります。

ここでは、期日が 6 月 1 日に設定されていますが、
まとめると、このコールオプションは

「日経平均を 6 月 1 日に 10,000 円で買う権利」

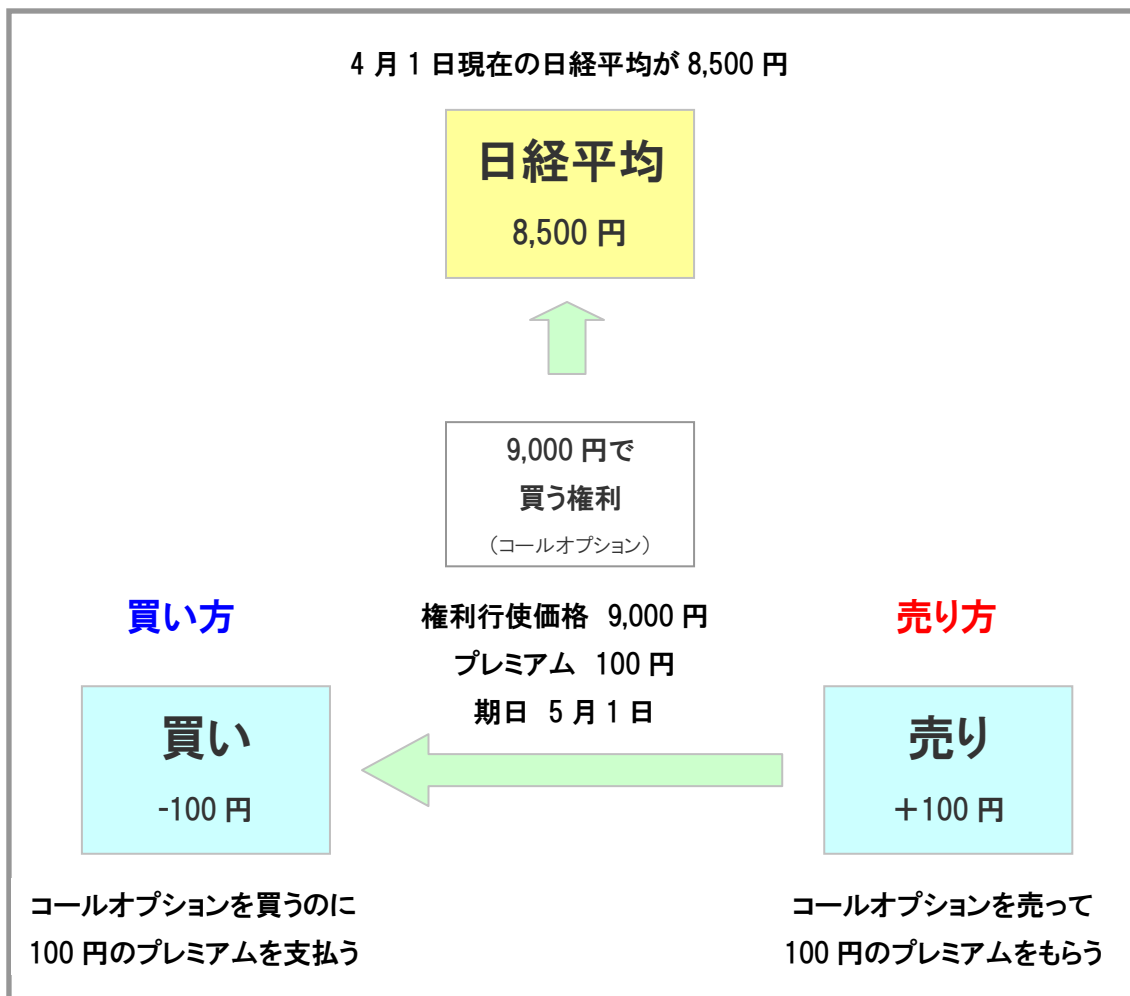
ということになります。

ようするに日経平均が 20,000 円であったとしても、
日経平均を 10,000 円で買うことができるのです。

なんとなくおわかりいただけましたでしょうか。

それでは、実際の売買のやりとりでご説明しましょう。

○オプション売買日が 4 月 1 日の例



このオプション取引では、

オプションの売買が成立した日は 4 月 1 日、
そしてオプションのプレミアム(値段)が 100 円で
取引されたとしましょう。

このオプションの期日は 5 月 1 日、
権利行使価格は 9,000 円なので、買い方は

“日経平均を 5 月 1 日に 9,000 円で買う権利”を
買ったことになります。

ここで重要なのは

買い方は権利行使価格(9,000 円)で日経平均を
買う権利を持っていますが、

これを必ず買わなければならない

というわけではありません。

逆に売り方は、買い方の要求に応じて権利行使価格で

日経平均を売らなくてはならないという

義務を負います。

それでは、先程のオプション取引の期日が
来たときを見てみましょう。

○期日の 5 月 1 日に日経平均が 9,500 円になった場合



このケースの場合

買い方は、9,000 円で買う権利を持っているので、
9,500 円の日経平均を 9,000 円で買うことができます。

さらに、それを買ってすぐに売ってしまえば、
その時点で 500 円の利益になります。
ただ、最初にプレミアムの 100 円を支払っているので、
トータルでは 400 円の利益となります。

売り方は、買い方の権利行使に応じる
義務がありますので、9,500 円の日経平均を
9,000 円で売らなくてはなりません。

売り方はこの時点で **500 円の損失**となります。

そこから、最初にもらったプレミアムの **100 円**があるので
加算すると、トータルで **400 円の損失**となります。

つまり、今回のケースで考えると

日経平均が 9,100 円以上になった場合は、

買い方が利益を得て売り方が損をすることになり

逆に日経平均が 9,100 円以下になった場合は、

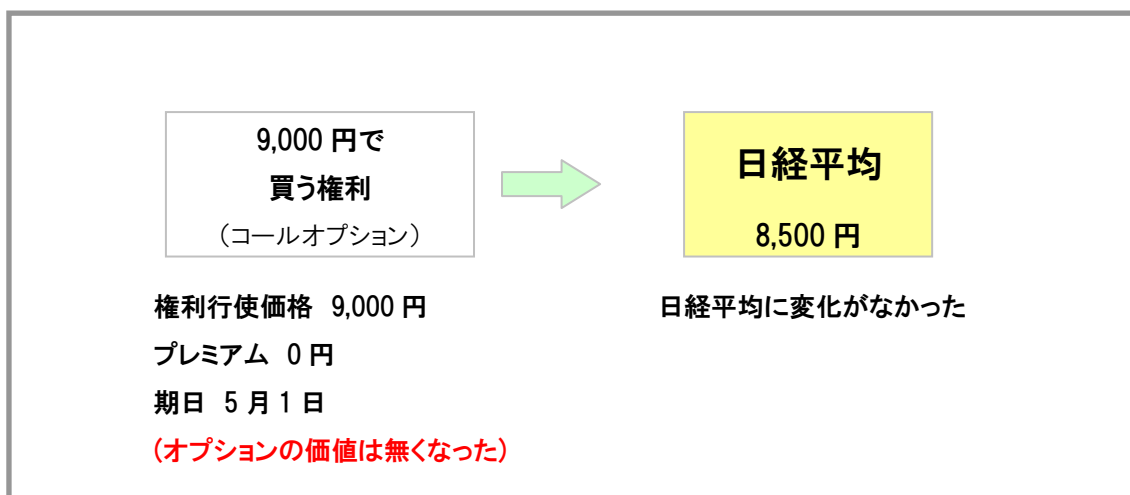
売り方が利益を得て買い方が損をすることになります。

ここまでご理解頂けましたか？

それでは、日経平均に変化がなかった場合、

もしくは日経平均が下がった場合はどうなるのでしょうか？

○期日の 5 月 1 日に日経平均の変化がなかった場合
(もしくは日経平均が下がった場合)



もうお分かりと思いますが、このケースの場合

買い方は、9,000 円で買う権利を持っていますが、
8,500 円の日経平均を 9,000 円で買うわけには

いきませんので、

権利行使をせずに**権利放棄**となります。

この場合は最初にプレミアムの **100 円**を
支払っているので、トータル **100 円の損失**となります。

売り方のほうは、オプションの価値が
無くなってしまった為、何もする必要はなく
最初にプレミアムの **100 円**をもらっているので、
トータルでは **100 円の利益**となります。

オプション取引の仕組みが、
だんだん分かってきましたか？

一気に頭に詰め込もうとすると疲れてしまいまし
集中力がきれてしまうので、上記の内容が

理解できない方は**コーヒー**や**お茶**などを飲んで
少し休憩をとってから

ゆっくりともう一度読み直してみてください。

次は、先ほどご説明した「**コールオプション**」の逆で
売りつける権利の「**プットオプション**」について
ご説明していきます。

【プットオプション】

プットオプションとは

“売りつける権利”

のことを言います。

こちらも先ほどの「コールオプション」と同じく
権利の売買になりますので

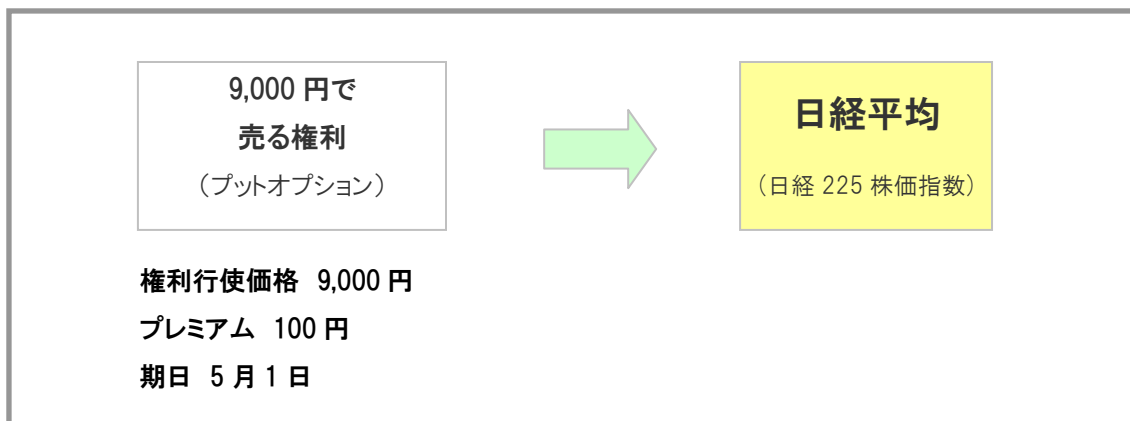
- ・「売りつける権利」を買う
- ・「売りつける権利」を売る

という取引ができます。

“買う権利”が“売る権利”になっただけなので、
基本的なルールは「コールオプション」と同じです。

それでは今回も例を図でご説明しましょう。

○プットオプションの例



今回の例では

「5 月 1 日に日経平均を 9,000 円で

売ることができる権利(プットオプション)」

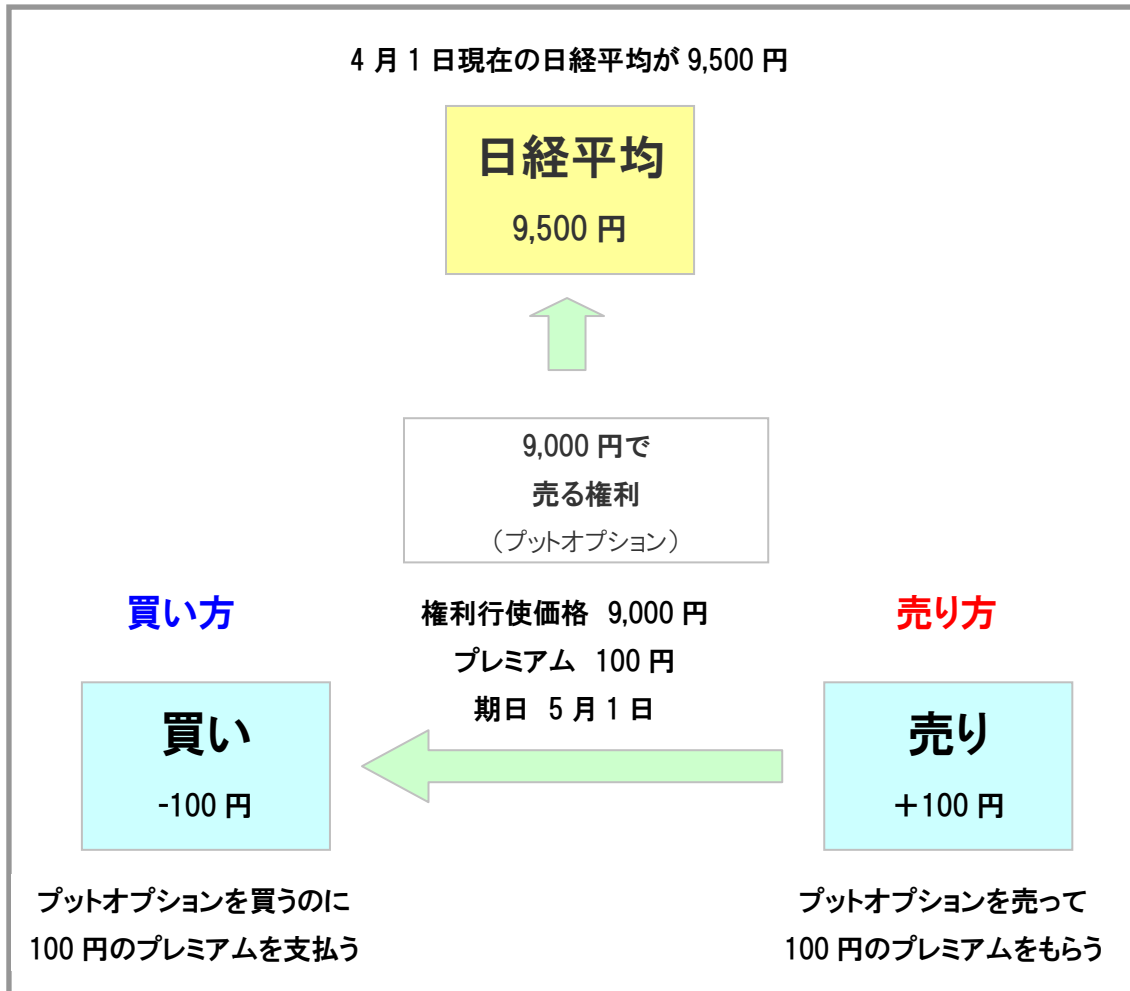
を示しています。

プレミアムが **100 円**になっているので、

このオプションは **100 円**で取引されるということですね。

それでは、実際の売買のやりとりでご説明しましょう。

○オプション売買日が4月1日の例



ここでは、買い方が売り方から **100 円** のプレミアムで
プットオプションを買っています。

売買の成立した日は 4 月 1 日で、期日は 5 月 1 日。

買い方は

「5 月 1 日に日経平均を 9,000 円で売る権利」

を買ったということですね。

またコールオプションと同じく、

プットオプションの買い方には権利があり、

売り方には義務があります。

ここでいま一度、分かりやすくご説明させていただきます。

買い方は、期日に権利行使価格で
日経平均を売る権利を持っていますが、

必ず売らなければならないということではありません。

逆に売り方は、買い方の要求に応じて権利行使価格で

売らなくてはならないという義務を負います。

【重要ポイント】

「コールオプション」も「プットオプション」も

買い方は“権利”

売り方は“義務”

と覚えておいて下さい。

それでは、取引の期日が来たときを見てみましょう。

○期日の5月1日に日経平均が8,500円になった場合



このケースの場合

買い方は、9,000 円で売る権利を持っているので、
日経平均が 8,500 円まで下がっても 9,000 円で
売ることができます。

買ってすぐに売ってしまえば、500 円の利益になります。

ただ、最初にプレミアムの 100 円を支払っているので、
トータルでは 400 円の利益となります。

売り方は、買い方の権利行使に応じる義務が
ありますので、8,500 円の日経平均を 9,000 円で
買わなくてはなりません

ここで **500 円の損失**となります。

また、最初にプレミアムの **100 円**をもらっているので、トータルでは **400 円の損失**となります。

ようするに、期日までに日経平均が十分下がれば、

「**プットオプション**」の**買い**方は**利益**を得て、

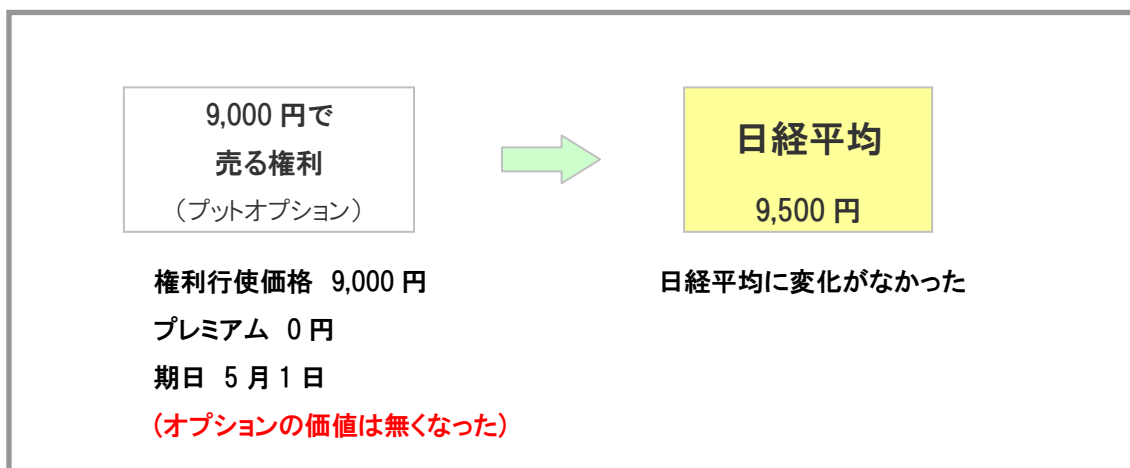
売り方は**損**をすることになります。

そうです。「**コールオプション**」とは全く逆になります。

それでは、日経平均が下がらなかった場合はどうなるのでしょうか？

こちらも見てください。

○期日の5月1日に日経平均の変化がなかった場合
(もしくは日経平均が上がった場合)



今回の買い方は、9,000 円で売る権利を持っています。

9,500 円の価値がある物を、あえて権利を使って
9,000 円で売りたいくはないですね？

つまり、このオプションは
価値が無くなってしまったということです。
権利を行使するかは買い方の自由ですが、
メリットがない場合には**権利放棄**することもできます。

最初にプレミアムの **100 円**を払っているので、トータルで
は **100 円の損失**となります。

売り方は、オプションの価値が無くなってしまった為、何もする必要はなく最初にプレミアムの 100 円をもらっている、トータルでは 100 円の利益となります。

プットオプションの売買は、
日経平均と損失の関係が
コールオプションとはちょうど反対に
なるということになります。

オプション取引の基本、

「コールオプション」の“買い”と“売り”

「プットオプション」の“買い”と“売り”

の 4 種類をご説明しましたが

ここまで覚えていただければ、もうすでにオプション取引
については、十分に理解されたと思って下さい。

もし、まだ分からないと感じている場合は

休憩をとりながらゆっくりと時間をかけて読み直してください。

【Call(コール)と Put(プット)のまとめ】

ここまででコールとプットを理解していただきましたが、
やはり最初は

“コール”

“プット”

“買い方”

“売り方”

などパターンが複数あるので混乱してしまうと思います。

コールとプットについてざっくりとまとめてみましたので、
復習のつもりでご覧下さい。

【オプションの種類】

コールオプション = 買いつける権利

プットオプション = 売りつける権利

【オプションに関する重要な用語】

権利行使価格 ⇒ 前もって選んだ

売買する権利の価格

プレミアム ⇒ 売買する権利に対して

つけられる価値

期日(満期日) ⇒ 権利行使できる日にち。

または権利行使の期限。